

編集後記

(63巻 第8号 2017年8月)

iPS 細胞を利用した病態研究が、また 1 つ新しい治療開発につながりそうだ。2013年、iPS 細胞研究所から、各FOP(進行性骨化性線維異形成症)の患者さんから作成した iPS 細胞をシャーレ内で骨や軟骨に分化誘導することで FOP の病態を再現出来たとする報告があった。この実験系は FOP 患者の骨化を防ぐ治療薬の発見に貢献出来る新しいアプローチである。iPS 細胞自体を治療に用いる再生型の医療とは異なった応用法であり、すでに開始されている黄斑変性症に対する iPS 細胞治療に次ぐ臨床応用となる。

4 年を経て、いよいよ臨床治験がスタートするというが、その治療薬候補が「ラパマイシン」という、すでに臨床で使用されている薬である(いわゆるドラッグリポジジョン)ことも興味深い。

(小川 修)